

『恐竜と考古学と僕』

土を掘り進めると本物の恐竜が出てくると本気で思っていました。今でも恐竜は大好きですが、少年時代の僕はそういう理由で考古学者になりたいと思っていました。考古学者になった僕は、恐竜発見チームの一員として日本全国いや世界中の恐竜生息地に出向き、その土を掘り、大好きなティラノザウルス、スティラコサウルス、パキファロサウルスに会える!そんな素晴らしい仕事はこの世にはほかにない!と少年時代は目を輝かせていたと想像します。

そんな夢を抱き、恐竜の図鑑やビデオを食い入るように観たものです。しかし、ある日の事、TVである有名な考古学の先生が〇〇恐竜を探すというテーマの特集番組が生まれ、こゝまたTVの前で釘づけになって観ていた時の事です。番組が終盤を迎え「いよいよ、〇〇恐竜発見か!」とテロップが流れ、CM明けに見た映像に僕は大きな衝撃を受けました。画面に映し出されたのは白いカケラの数々、そう「骨」でした。その考古学の先生は「これは大発見です!間違いない〇〇恐竜の骨です!」と興奮気味にインタビューに答えられていたのを今でも鮮明に覚えています。その瞬間、TVの中で何か起こっているのかしばらく理解が出来ず戸惑ったのを覚えていますね。番組が終了し、しばらくしてやっと気づきました。僕自身が大きな勘違いをしているということ。そう、この世には生きた恐竜はいない!土から出てくる恐竜は生きた恐竜ではなく、恐竜の「骨」なんだと…

今なら「そんな当たり前やん」と自分で自分に突っ込めますが、当時、この事実を知った僕はかなりのショックを受けましたね。でも思うんですよ、これがいわゆる「子ども」の発想なんだと。今は小児科医として日々子供たちの診療をしています。僕と同じことを思っている子供たちが多いとは言いませんが、子供特有の世界観や考え方は本当に奇抜で大人には思いつかないほど楽しく夢のあるものだなあと思ったりします。当時の僕もそんな子供でした。

こういう経緯もあり、考古学者になる夢はもろくも消え去り、その後、紆余曲折があり今は小児科医をしています。現代の社会で生きた恐竜には出会えないけれど、CGなどの技術が発展してくれたおかげで映像として動く恐竜を観ることが出来ますし、アミューズメント施設などでは人形ではありますがリアル感満載の動く恐竜を見る事も出来ます。こうした映像技術やロボット開発の技術(AIもそうでしょう)が向上した事で、「動く」恐竜を僕たちは今、観ることが出来ます。その上、考古学の世界でも色々な恐竜が生息していた時代の事が分かってきており、どういった環境だったのか、ど

ういう恐竜がどれくらいの大きさで何を食べていたのか、どんな場所に住んでいたのか等々、僕が少年の頃には「不明」とされていた恐竜の居た時代がどんどん分かってきています。勿論、一部は想像の域を超えないけれど、こうした技術や学者先生方のおかげで、僕のような恐竜好きは毎日色々楽しませてもらっています。

6550万年前くらいでしょうか、直径12kmの隕石が地球に落下、激しい酸性雨が降ったと聞いています。それが引き金となり恐竜は絶滅し今に至ります。もう実物にある事は出来ない恐竜ですが、その様々なフォルム、様々な性格、当時の生息状況は現在進行形でどんどん分かって来ていますので、とても楽しみにしています。また、何と言っても、恐竜の全体の存在感、いわゆるスケールの大きさは、現代を生きる動物(人間も含め)が絶対に勝てない魅力の一つだと僕は思っています。

これからも無類の恐竜好きとして色々な映画を観、色々なイベントに出掛け、アミューズメント施設の恐竜を主役としたアトラクションは絶えずチェックしていきたいと思っています。皆さんのお子様は恐竜、お好きですか?お父様はいかがでしょう?

お気に入りの恐竜の人形などがあれば、是非、クリニック受診の際にお持ちください!診察が終わった後にも恐竜談義に花を咲かせましょう!今から開院が待ち遠しいです。余談ですが、僕は年始の福袋を買うのも趣味の一つ、来年は「恐竜グッズ福袋」あれば買いたいなあ〜今のところ出会った事はありませんが。

(おわり)



川西おの小児科・アレルギー科 北尾 哲也

☎072-756-7177

【川西おの小児科・アレルギー科】 <https://kawanishi-shounika.jp>
【医療法人 おの小児科メインHP】 <http://www.onokidclinic.jp>

B型、みずがめ座、焼き肉、卵かけご飯、お茶漬け好き